

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

授業参観で感じたこと

○製作活動の一コマ

子ども：「先生、作業で使うメガネはどこにあるんですか？」

教師：「どこにあるかな？」(子どもに見付けるように促した)

子ども：(一人で探し始める)「先生、メガネがありました！」

教師：「よく気付きましたね」(一人で用意できたことをほめる)



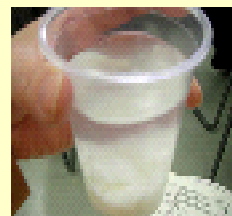
とかく私たちは、子どもからの質問にすぐ答えを言ってしまう。しかし、経験したことであれば、子どもが「考える・判断する」姿を大切にしたい。できたらすぐ評価することで、子どもは達成感を味わい、次からは自分で考えて行動できるようになる。これが子どもの主体的な行動を生み出し、生きる力(いろいろな場面で応用できる力)となっていく。

○子どもが間違っコップの水をこぼしてしまった場面

私なら：「ダメでしょ、すぐ拭きなさい！」(感情的に怒っていたと思う)

先生：「あっ、こぼしちゃったね。どうする？」(叱らずに対応していた)

水をこぼして困っていることに共感した上で、どのような行動をしたらよいか子どもに考えるチャンスを与える。もし子どもが分からなければ「ふきんで拭いてください」と、適切な行動を教える。「片付けが面倒くさい」という大人の一時的な感情をぶつけるのは、自己満足にすぎない。子どものピンチをチャンスに変えよう！



発達障害のある子どもの学習支援 PART3

○ユニバーサルデザインの授業づくり 〈授業の展開のポイントその1〉

(1) 授業のパターンをつくる(ドキドキ感よりも安心感を)

- ・国語は「音読→読み取り→視写→漢字練習」、漢字練習は「教師が見本を示す→書き順を唱えながら空書き→ドリルに書く」など、教科によってパターン化することで子どもが安心できる。

(2) 多様な学習形態を工夫する(空白の時間をつくらない)

- ・説明中心や一問一答形式ではなく、一斉指導、グループやペア活動、個別指導などを組み合わせる。
- ・グループ学習はねらいと役割を明確にする。
- ・落ち着きのない子どもはペア活動が効果的である。



(3) 1単位の時間の授業を分割する(集中力とモチベーションのアップ)

- ・1コマ10～15分の授業を組み合わせる。
- ・やることを焦点化し、ゴールの時間を設ける。



お知らせ

・出前授業「障害理解」のデータを教育専門監のページで紹介していますのでご活用ください。なお、計画する際は、授業のねらいや用語の使い方等、相手校と入念な打合せを行う必要があります。